

## 分骨・返骨について



●Answer

沖縄市・コザ山 球陽寺 前任職  
帰依 龍照 (きえ りゅうしょう)

**Q** 誰にも内緒の話です。32年前、オヤジの骨をポケットに入れてしまいました。今年、墓を直しました。その時、一緒に壺に返していいでしょうか？長男が体をバラバラにしてしまったので、オヤジのタタリが怖いのです。

(Y村Tさん)

**A** Tさん、お父さんのことをとても尊敬されているのですね。誰にも内緒ですか……、わかりました。沖縄のしきたりでは、どんな解決策があるのか、一緒に考えていきましょう。「体をバラバラにしてみました」と言えば、確かにそうですね。でも、専門的には、分骨という立派な作法ですので、32年前のことで自分自身を責める必要はありません。

その昔、印度(いんど)にゴータマ・ブッダという方がおられました。日本では、お釈迦さまと呼ばれています。ゴータマ・ブッダが亡くなられたとき、遺骨はサンスクリット語(印度の古語)の『sāriira(シャリア・舍利(しゃり)＝亡骸(なきがら))という語源から、人々は『仏舍利(ぶつしゃり)＝ブッダの遺骨』と言うようになりました。『仏舍利』は、お釈迦さまを慕う弟子・部族などにより、やがて8分割→10分割と分骨されていきます。以来、人々もお釈迦さまの『仏舍利』の分骨にならい、形見分(かたみわ)けという意味から、大切な身内の遺骨を分

骨するようになったといえます。ちなみに、遺骨と同じ白色の白米のことも、サンスクリット語では『sāri(シャリ・舍利)』といえます。日本では、寿司飯のことを粋な呼び方で『しゃり』といいますよね。さて、今回の相談ですが、今年、合骨(あいこつ)する絶好のタイミングだと思います。合骨とは、合葬(がっそう)ともいい、別々の遺骨を一緒にすることをいいます。

合骨の種類には、ミートウンダー・カーミー(夫婦合葬)、ウヤヌフ・チュクル(親の懐)、カーミー・ゲージ(骨壺返し)などがあります。

『ミートウンダー・カーミー』とは、夫婦の遺骨を一緒にすることをいいます。「ミートウンダー・カーミーヌ チビティーチ(夫婦はグソー(仏の世界)でも一緒)」という格言から、『グソーヌ ニービチ(仏の世界の結婚式)』ともいいます。

『ウヤヌフ・チュクル』とは、親子の遺骨を一緒にすることをいいます。数え年7歳未満(13歳未満の地域もある)のユース(幼少)の子どもを、お母さんの胎内に返す『シンダシ(血筋正し)』という作法から(お父さんの懐に返す地域もある)、『ウヤゲージ(親返し)』とも呼ばれます。

『カーミー・ゲージ』とは、故人のカーミー(骨壺)に分骨した遺骨をウケージ(お返し)することをいいます。

今回のTさんの場合は、カーミー・ゲージに該当しま

す。カーミー・ゲージも、ミートウンダー・カーミー・ウヤヌフ・チュクルなどと同じ手順ですので、以下を参考にしていただけだと思います。

### 【合骨の手順】

- 1 お墓を修理する当日、ウサギムン(お供え物)を準備して、ご住職の読経など、専門家のご供養を賜ります。
- 2 お墓の内部を修理する場合、ヒラチ(蓋石(ふたいし))をバール・握りこぶしなどで3回ノックして、ゆっくりと開門します。
- 3 各カーミーを外に出して、お墓のウナー(御庭)にウンチケ(安置)します。
- 4 酒・海水・水などを使用し、カーミーをシンクチ(洗骨)します。
- 5 お父さんのカーミーの蓋を開けて、チュブルブニ(頭蓋骨)もシンクチします。
- 6 火葬の場合、チュブルブニが最上段にウンチケされていくはずですので、シンクチの途中、チュブルブニの下に分骨した(ポケットに入れた)遺骨を大切にウケージします。

※4〜6は、お墓の修理が完了後、再度、納骨するときでも可能です。

Tさん、今回は、合骨の好条件がそろっています。お父さんは、32年前にお亡くなりですから、今年、ウワイスーコー(終わり焼香)の三十三回

忌。これ以降は、シンクチが可能な期間です。また、今年、グンクワチターチャー(旧暦閏(うるう)五月)のウンヂチ(閏月)でもあります。お墓の修理も、全島で多く行われるはずですが、Tさんは長男とのことですから、お墓の修理の依頼者、施主でもあるでしょう。いずれも、シンクチのとき、お墓の修理のとき、施主の判断としてお父さんのカーミーを開けること、遺骨をウケージすることが可能になります。お父さんの遺骨は、多分、お葬式の収骨のとき、ポケットに入れたのでしょうか？

沖縄では、分骨の習慣が一般的ではないので、タタリとかを耳にし、今日まで心苦しかったのでしょうか。しかし、タタリには『多々あり』というプラサ発想の考え方もあります。お父さんの遺骨を通じて、『多々ある』経験をされたTさんを、グソーのお父さんは長男である後継者として、心強く思われていることでしょうか。

